

金沢大学 高大接続リーディング・セミナー事前課題一覧表

松本俊彦『誰がために医師はいる：クスリとヒトの現代論』（みすず書房、2021年）

2026年3月21日（土）

氏名	Q1	Q2	Q3
大塚一輝	依存性として代表的なアルコールや薬物は、世間一般にはただ快樂を求めているだけのように見えるが実際には孤独から開放されたいという思いがある人もなかにはいること	1.P40 私は、薬物再使用してしまった患者に対して、まずは正直な告白をねぎらったうえで、自分の率直な疑問をぶつけてみた。2.P37 ところが、自助グループに行けば、何とか苦しい日々を乗り越えて1年間やめつづけた人、あるいは、三年やめつづけて気持ちにゆとりが出てきた人、さらには10年とか20年やめつづけ、薬物がない生活があたりまえになっている人とも出会うことができます。3.P193 そして、その人が抱える心の傷が深刻なものであればあるほど、劇的な効果をもたらす薬は危険である	やはり使用してしまった理由を聞かなければ次の1歩が踏み出せないと思うし、自助グループのようなものに入るにせよハビリをするにしろ理由がわからないと何も出来ないし、あまり過去の話进行深入聞き出すとトラウマが蘇ってしまうというような文章もあったのでそこは難しいが無理の無い範囲でまずは聞き出すことが大切だと思う。
須藤大賀	医師、医療というものは人を正すのではなく人を信じれない人に手を差し伸べること	1.依存は「生きのびるための行為」である。(p.56) 2.薬は治療は万能ではない。(p.184) 3.「患者の語り」は無視してはいけない。(p.51)	トラウマによるフラッシュバックから逃れるために、自らの身体に苦痛を与えるしかない状況がある。その中で自分がコントロールできることは限られていて、その結果、一時的につらさを軽減する手段として不健康な行為に頼らざるを得なくなる場合があるためである。
武田美那	医師も弱さを持つ1人の人間であり、その不完全さを認めた時に初めて患者と真の信頼が築ける。	P57、生き延びるための不健康。P55、薬物がやめられないのは快感ではなく苦痛を忘れさせてくれるから。P131、この世には良い薬物と悪い薬物もなく、あるのは薬物の良い使い方と悪い使い方だけであるということだ。	依存性の人に限らず、外からは健康に見える人も小さな痛みや不調を抱えながら均衡を保っているのかもしれないと思うと、薬物依存症の患者と私達に少し重なる部分が見えてきてより深い理解に繋がると思ったから。
中村樹	患者が抱える生きづらさの背景にある家庭環境などの社会的なトラウマに向き合い、	だが、そうした犯罪の加害者である子どもたちの話を聴いていると、彼らこそが被害者であり、必要なのは刑罰ではなく、精神医	そうした～ではないかと思わざるを得なかった。という文です。この文にはハームリダクションの考え方が適用されており、そ

	安心できる居場所を提供することが医師の本当の役割であること	学的・心理学的な治療なのではないかと思わざるを得なかった。62ページ目、結局、それまで出会った人たちの集合体、集団である。そして、人は信頼する集団の規範、自分にとって大切な集団の規範だけを尊重し、遵守するものである、69ページ目、そして、延々とくりかえされる不平不満を遮って診察を切り上げようとすれば、逆ギレしてこちらに議論を挑んでくる、88ページ目	の前の少女や少年の体験から、自分が不健康なこと(悪さ)をすることによって安心に寄り添うことが出来たと考えました。このことが、正しさよりも、命を守るというハームリダクションの考え方にとってもあっていると感じました
沼田妃生	医師は治療技術だけでなく、患者の苦しみや孤独といった精神面でも併走できるそんざいであるべきだということ。	112ページ次回の診察予約をとること自体に治療的な意味があり、予約の有無こそが生ける人と死せる人とを隔てるものなのだ211ページアディクション(依存症)の反対語は「しらふ」ではなく、コネクション(つながり)56ページ一時的には自殺を回避するのには役立っている。	医師は患者の人生を完全に变えることは不可能であるが、それでもなお見捨てずに関係を持ち続けることが大切であると主張しているから。また、このような文が最後の段落にも書かれているから。
本堂暖人	薬物依存は「犯罪」ではなく「病気」であり、クスリと言うものは使い方によって良し悪しが変化するということ。	57ページ「生きのびるための不健康」37ページ「人生においてもっとも悲惨なことは、ひどい目に遭うことではありません。一人で苦しむことです」151ページ「ダメ。ゼッタイ。では、絶対ダメだ、と。」	薬物依存症患者は薬物を明日を生きるための支えとして使うことがあり、世の中には、苦しみを緩和するために不健康や痛みを必要とする人がいるため、ただ患者の身体を健康にするだけではその患者を本当に救ってはいないと考えたから。

氏名	Q4	Q5
大塚一輝	P156 精神科の病気は3つしかない それは泣き言と戯言と寝言の3つだ	正直依存性と聞けば悪いイメージしか沸かなくて実際悪いことであるという事実は変わらないと思うけれどその背景にある出来事について考えたことがなかったのでそのきっかけを作れたことがとても良かった。その依存性を診る医師の立場になってみてやはり診察の仕方であったり言葉のかけ方であったりと本当に難しいなと思った。アルコールや薬物に依存している人の共通点として「孤独」があり、共感してくれる人を身近に置いておく必要がやはり必要なのかなと文章を読む中で思いました。正直自分が医師の立場だとしたらここまで色んな考えが出てこないと思うし、著者の方がここまで色んな対処法を考えられたのは周りの環境のおかげだったのではないかなと思います。
須藤大賀	依存や自傷が「生き延びるための手段」であると言う点はとても理解できたが、どこの範囲までが含まれるのかの境界線があいまいに感じられた。日時用生活での刺激欲求なのか、それとも強い不安感から逃れるための行為なのか、その違いがはっきりとしなかった。	『誰がために医師はいる』を読んで、依存や自傷が単なる逸脱行為ではなく、トラウマや強い不安感から生き延びるための手段であるという筆者の指摘は非常に示唆的だった。特に、患者の語りや体験に耳を傾けることの重要性が強調されており、症状や処方だけでは捉えきれない苦痛の理解に直結するという点が印象的である。一方で、医師が処方行為の限界や、依存行動の具体的な境界線についてはやや曖昧であり、現場でどのような介入が適切かは判断が難しいと感じた。セミナーで議論する際には、依存行動の意味や医療者の対応の在り方について意見交換をすることで理論と実践の接続点を深く検討できると考えた。
武田美那	自傷行為を否定せず、その背景にある苦痛を理解しようとする姿勢は重要だと思うがら周囲の人間や家族からすれば、目の前で自らを傷つける行為を、生きるための手段として受け入れたりすることは、精神的に非常に過酷である。家族の感情的なケアと、著者の唱える受容の姿勢をどう両立させるべきなのか、疑問に思った	本書を読み、依存症が快楽を求める不謹慎な病ではなく、「絶望的な孤立から生き延びるため、又は苦痛から逃れるための必死の防護策」であるという視点に強く衝撃を受けた。特に「ダメ、ゼッタイ」という教育が、助けを求める声を封じ込め、当事者をさらなる孤立へ追い込んでいるという指摘は、これまでの自分の常識を覆すものだった。医療の目的は必ずしも完治(薬物を完全にやめること)だけではないという視点に深く考えさせられた。著者が説く、薬物や自傷を生き延びるための杖として認め、まずはその人の生存を優先する姿勢は、効率や成果を求める現代医療への問題提起だと感じる。

中村樹	なぜ自身をアルファロメオと表現したのか	犯罪者と呼ばれる、薬物使用者の少年少女や性被害に襲われた少年少女たちの体験から根強い社会的トラウマが感じられました。このトラウマが少年少女たちの人生の在り方を考えることを妨げているのだと私は感じました。これにより、多くの「困っている人」が救われない状況にある。だが、医師はその状況を打破するためにあるのだという著者の強い意思が感じられました。とても有意義な読書の時間でした。ありがとうございます
沼田妃生	185 ページの「やはり金儲け主義だからでしょうか」と見当違いの感想を述べた。	誰がために医師はいるを読んで、医師は治療技術に富むだけでなく、患者の苦しみや孤独、依存などの精神面にも目を向ける存在であるべきだと分かった。また、目に見えない病気と向き合うためには関係を持ち続けることが大切だと感じた。依存症を意思の弱さと捉えず、依存症になってしまったのはなぜなのか、と疑問をもち、依存症の背後にある生きづらさや孤独に目を向けることが重要であると筆者は記しており、その視点が私にアディクション臨床への「気づき」を与えた。
本堂暖人	208 ページ「アルコールがもたらす「酔い」—ただし、「適度な酔い」に限定されるが—は、コミュニティ内の葛藤や軋轢、対立を緩和し、集団を束ねるのに貢献したのではなかろうか？」	今までは、この本に書かれていたように、小・中学校などでの薬物乱用防止教室では「幻視・幻聴がおこる」のように教えられてきたり、どのような意図や使い方であっても薬物というものは犯罪であって、絶対に使ってはならないと言われてきたが、実際には薬物依存というものは治療が必要な病気であると分かった。また、薬物を使用する人は、必ずしも快楽が目的だというわけではなく、生きるために必要とする人もいるため、薬物依存者を「犯罪者」ではなく「支えが必要な人」として見ていくべきだと考える。

質問項目

- Q1. 課題図書を読み、本書において、著者がもっとも主張したい事柄を自分の言葉でまとめて下さい (50 字程度)。
- Q2. あなたが重要だと考えた箇所を 3 つ挙げて下さい (引用、要約どちらも可。ページ数を記載すること。行数は不要です)。優先順位の高い順に、記述して下さい。
- Q3. Q2 のうち、もっとも重要だと考えた箇所についてのみ、その理由をまとめて下さい (100 字程度)。
- Q4. 著者の主張のうち、理解できなかった点、納得できない点、よくわからなかった点などを一つ挙げて下さい (左記の各々について一つではありません。左記に関する事柄について、一つです。該当する箇所を特定できる場合はページ数を記載して下さい)。
- Q5. 当日の Live セミナーにおいて、参加者で自由な議論することを少し念頭に置きながら、この本の感想を自由に書いて下さい (最低 100 字。上限はありません)